

あのときの常呂・写真館

VOL 91

(1982年)

昭和57年7月17-18日

第1回オホーツクサイクリング

▶今年で35回目を迎えた「オホーツクサイクリング」の始まりは、昭和57年まで遡ります。雄武町を起点としてゴールの斜里町までのオホーツク海沿岸200キロあまりを自転車で走破する、それまでないイベントでした。特に、常呂町はコース全体の中間にあり、1日目の宿泊地にあたることから大勢のサイクリストを迎える地域のイベントでもありました。●「広報ところ」は、この第1回、翌年の第2回を2年連続で表紙に採用し、町にとって大きなできごととして伝えています。●参加人数は、第1回が約400人、第2回は900人。2回とも常呂町での宿泊場所は、町立のかき島青年の家。今も続くフェスティバルは青年の家の広場で行われ、バーベキューやフォーク・コンサート、キャンプファイアーで交流を深める内容でした。●参加者が1,100人に達した昭和59年度の第3回以降は、スポーツセンターや多目的研修センターをメインに町内数ヶ所で宿泊し、百年広場でサイクル・フェスティバルが行われる現在のスタイルに移行します。●残念ながら第1回の写真はありませんが、始まった当時の参加者の自転車や服装は今とは相当違い、気軽に参加する「サイクリング」感覚の催しだったといえます。●昭和58年の第2回、昭和59年の第3回のようにすを写真でござんください。

▶次の写真は、第2回（昭和58年）です



*左：

7月16日、栄浦の青年の家に到着する直前のサイクリストの集団

（中央に見える施設は、青年の家／現少年自然の家から100mほど浜佐呂間寄りに位置する「サロマ湖養殖漁業協同組合調査研究センター」）



左：

16日の夜、青年の家の
の広場で行われた交歓フ
ェスティバルのキャンプ
ファイアー



*左

同じ交歓フェスティバル
で演奏した「かき島太
鼓」のステージ

*右

7月17日の朝、青年の家
を出発する直前のサイクリス
ト



*右・右中・下

3枚の写真を順に紹介すると、青年の家を隊列を組んで斜里町へ向かってスタートしたサイクリストたちは、常呂町の市街地（中央の写真は、本通り）を抜け、今は撤去され、架け替え工事中の常呂橋を通り、常呂漁協の本部や施設を左下に見ながら、常呂バイパスとの交差点に向かって進んでいきました。



▶次の写真は第3回（昭和59年）



*左：

昭和59年7月14日、宿泊会場となったスポーツセンター、多目的研修センター前の百年広場でくつろぐサイクリスト



*左

百年広場でバーベキューを楽しむ人たち
（この頃は、町職員がバーベキュー用の大量のコンロを準備していました。バーベキュー用の食材を配っていた時代もありました）



*左

百年広場のサイクル・フェスティバルが盛り上がり、盆踊りを楽しむ人たち
（バンド演奏などで自然発生的に踊ったりするスタイルが定着していきます）



*左・下2枚

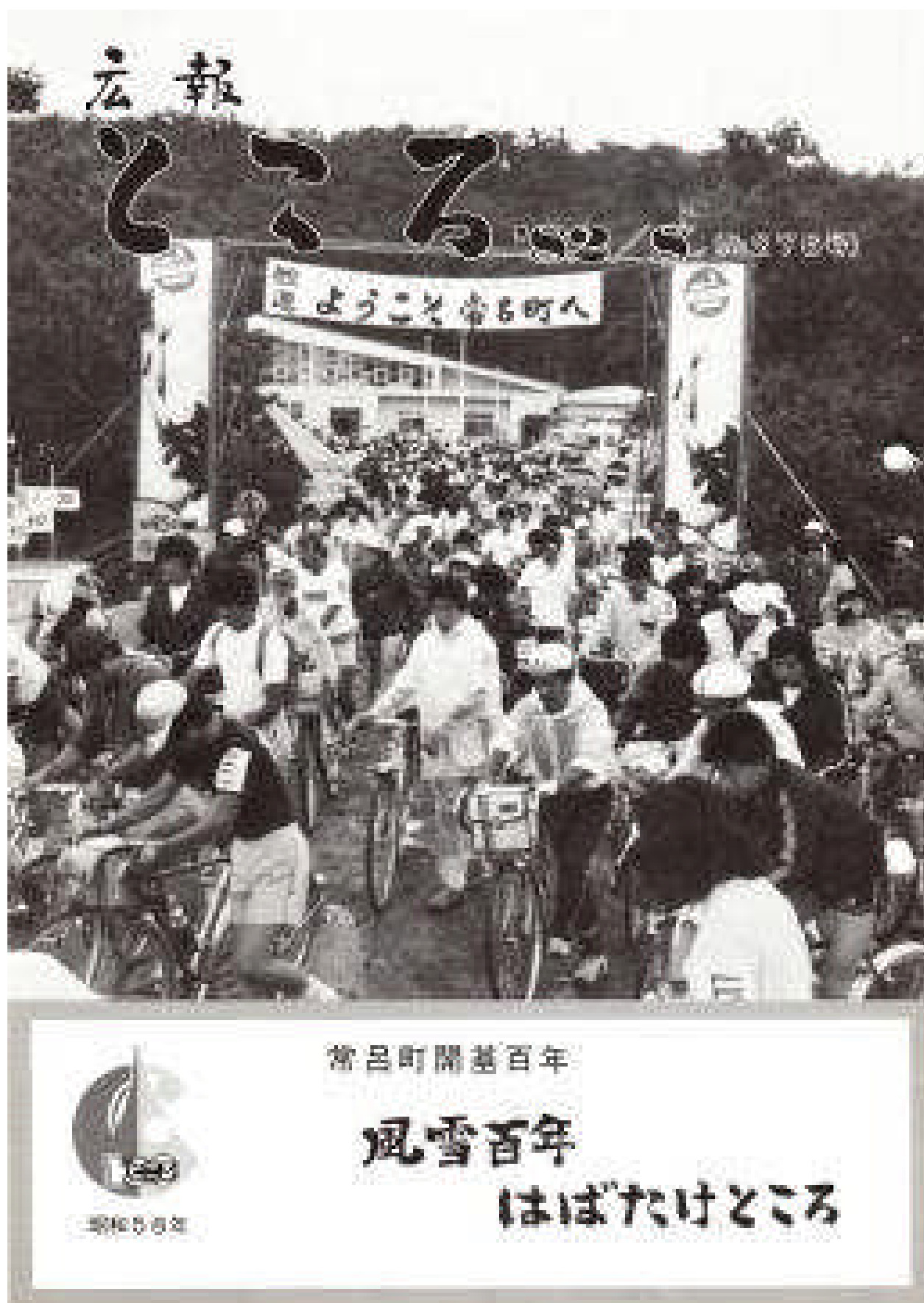
7月15日の朝、斜里町に向かってスタートしたサイクリストは、常呂市街を抜け、今はない常呂橋を通過していきます。

*下中央の写真は、常呂橋から旧国鉄の鉄橋を左手に見たものです。これら3枚の写真は、オホーツクサイクリングというイベントの写真ですが、常呂橋と鉄橋を両方写し取った歴史的記録にもなっています。



▶下は、昭和57年8月号の「広報とこる」の表紙です。

第1回オホーツクサイクリングで、町立かき島青年の家をスタートするところです。



▶下は、昭和58年8月号の「広報ところ」の表紙です。

第2回オホーツクサイクリングで、宿泊場所の町立かき島青年の家に到着する直前のサイクリストです。服装や自転車など、今とはずいぶん違う雰囲気を感じられる1枚です。

